

## 永遠の子供時代

平和統一連合 No. 64 (2014/1月号)

渡辺 久義

20.25 あなた方地球人の大多数は、永遠の子供時代と考えられるものの中に留まっている。

これは前号でも紹介した「一者の法」シリーズといわれる地球外高次元人から地球人に与えられたメッセージにある言葉で、今翻訳中の『シンクロシティ・キー』に引用されている。地球の外——空間的・次元的な外——から我々を見るとこう見えるらしい。我々の大多数は無知であるだけでなく、無知であることを知らず、それに気付かせようとする人々（例えばこの本の著者デイヴィッド・ウィルコックなど）を押し黙らせようとしている。ごく常識的に考えても、何かを本当に理解するには、外からの眼というものが必要である。例えば日本史は世界史の中で見ないと本当のことは分らない。ところが何者か我々の眼をふさごうとする者たちがいて、外の世界などというものはないと信じ続けているのが我々の現状である。

ウィルコックはこの本の6章「カルマは現実である」に「諸々の可能性を考えてみよう」というセクションを設け、次のように呼び掛けている——

地上の生活は、巨大で、細心にバランスを保たれた、微妙に維持された一つの幻影、訓練中の靈的達人のための学校だと考えてみることにしよう。この幻影は、我々の大多数が想像することもできないほどに進歩した、無数の知的な存在によって、導かれ見守られているのだと考えてみよう。我々がどんなに自分を賢いと思っているとしても、我々が——少なくとも今のところは——遥かに及ばない知性をもった人々が外の空間にいると考えてみよう。

透明な天井があって、我々が考え、言い、行うことのすべてが、これらの人々には、一刻一刻、知られていると考えてみよう。これらの人々は我々に対し、最大の愛と同情のほかは何も持っていないとしよう。彼らは我々の経験した苦しみのすべてに、深い理解をもっているとしよう。我々がいかに極悪と思える罪を他者に対して犯したとしても、これらの人々は純粹に我々を許し、我々に恥を負わせたり軽蔑することもなかった——他の人にはどんなにそれが不可能でも——と考えてみよう。

これらの人々は、我々が他者の自由意志は侵害したとき、確かにカルマの浄化の火を与えはするが、それは我々が完全なバランスに復帰できるように、絶対的な愛と敬意から、そうしているのだとしたら？ 我々がひとたび自分のカルマの支払いを済ませたら、再び恐怖を感じず必要もなくなり、いつも自由に他者を愛し助けることができるようになるとしたら？

・・・これらの人々は我々のために辛抱強く働いていて、自分たちのすることを手柄とする必要もなく、我々の誰一人として、彼らが誰か、何をしているのかを理解していなくても、喜んで仕事を続けているとしたら？

私はかつてここで、我々の現状を「鎖国」に喩えたことがあったが、子供あるいは幼児に喩える方がいいのかもしれない。幼児の世界というのは、母親を中心とした周囲数メートルの世界といってもよい。もっと大きい世界があるのだよ、と言って聞かせても理解できないだろう。幼児の場合は可愛いだけだが、大人の場合は、そう言って聞かせる人を信用せず逆に嘲笑する——「だって新聞でもテレビでもそんなことを言わないではないか」。しかし我々のメディアは、むしろそれを隠蔽する張本人だと考えてよい。だからウィルコックのように、「いろんな可能性を考えてみよう」と言わねばならない。いわゆる ID 理論に対するダーウィニストの反応のように、「そんな仮説を立てることさえ許さない」というのでは話にならない。唯物論というのは、どこから見ても幼児の理論である。

「我々を見守り導こうとしている人々」とここで言われているのは、我々の進化上の先輩たちのことであって、かつて天使とか神々と呼ばれていた存在だと言われる。今、必要があって我々にしきりに接触しようとしている。「透明な天井があって、我々が考え、言い、行うことのすべてが、これらの人々には知られている」というのは、私にも体験があって、「地球再生」という、ダウンロードしてその一部を訳して我々のサイトに載せている、長い論文を必死に読んでいたときに、それが起こった。詳しく語る紙数も意思もないが、生まれて初めての体験だった。「これらの人々は我々のために辛抱強く働いていて、自分たちのことを手柄とする必要もなく、我々のだれ一人として、彼らがだれか、何をしているかを理解していなくても、喜んで仕事を続けている」——その仕事の一つは、地球上のあらゆる場所にある、核ミサイルの遠隔操作による無力化であろう。これはこの本にも詳しく書かれていて、間違いない事実のようである。核兵器の開発が始まってから何度も危機を救っていただきながら、全く知らないでいるというのも幼児——母親に抱かれた幼児段階——に似ているではないか。